

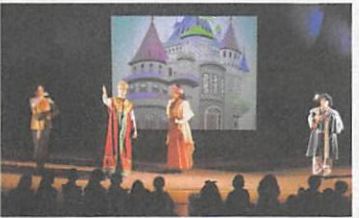
劇団かかし座が織りなす ふしぎな影に魅了

市内全域子ども会ファミリーイベント開催

市川子ども会育成会連絡協議会（以下、市子育連）は11月26日（日）、全日警ホールでファミリーイベント「影絵劇」を開催。育成者含め289人が影絵の世界に浸った。

出演は多数のメディアに出演し、国内外で人気を博す、影のスペシャリスト「劇団かかし座」で、演目はグリム童話の「長靴をはいた猫」。

上演前に行われたワー



オペラも交え、本格的なステージ

クシヨップでは、簡単な鳥やカニ、フクロウの影の作り方が説明され、会場中の皆で挑戦した。しかし、手で形を作ってみても、実際にどのように見えるかが分からない。すると「ステージでやってみたい人！」と団員の呼びかけが。「はい！」「はいい！」と子どもたちは元気に手を挙げた。「手の力を抜いてぶらぶらさせてほぐし…、手をこすって温めて…、影を見ながら少しずつ動かして…」とアドバイスを聞きながら、選ばれた3人がステージ上でチャレンジ。「思ったよりフクロウの目が細くなってしまうた。体は太って見えたり、難しかった」などと感想を述べた。

同劇団の舞台では、影絵を映し出すスクリーン

の前で、パフォーマーたちによる実演も同時に行う。動物の鳴き声や生歌も加わり臨場感あふれる演出が特徴だ。手を使って何種類もの動物を一瞬で紡ぎ出し、それが走ったり飛んだり驚きの連続技に、会場中が「すごい」という感嘆の声と大きな拍手に包まれた。

市子育連の石井克己会長は「昨年のファミリーイベントではドーム型プラネタリウムで市川市の夜空を観賞しました。ハゼ釣り大会や綱引き大会など、さまざまなイベントを企画しています。これからも皆が楽しめるイベントを考えていきたい」と話した。



人差し指と親指をつけて丸を作り、残った指をそろえ、根元から折り曲げ手首を交差…、フクロウが完成